

**製品名:** NQO1 ウサギポリクローナル抗体

**カタログ番号:** APRab14866

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	31kDa

## 抗原情報

遺伝子名	NQO1 NQO1; DIA4; NMOR1; NAD(P)H dehydrogenase [quinone] 1; Azoreductase; DT-diaphorase;
別名	DTD; Menadione reductase; NAD(P)H:quinone oxidoreductase 1; Phylloquinone reductase; Quinone reductase 1; QR1
遺伝子 ID	1728.0
SwissProt ID	P15559
免疫原	抗血清はヒト NQO1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 203-252

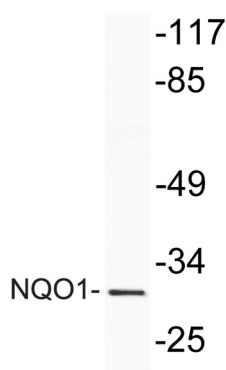
## 背景

この遺伝子は NAD(P)H 脱水素酵素 (キノン) ファミリーに属し、細胞質 2 電子還元酵素をコードする。この FAD 結合タンパク質はホモ二量体を形成し、キノンをヒドロキノンに還元する。このタンパク質の酵素活性は、ラジカル種の生成につながるキノンの 1 電子還元を阻害する。この遺伝子の変異は、遅発性ジスキネジア (TD)、ベンゼン曝露後の造血毒性リスクの増大、および様々な形態の癌に対する感受性と関連付けられている。このタンパク質の発現変化は多くの腫瘍で認められており、アルツハイマー病 (AD) とも関連している。異なるアイソフォームをコードする代替転写スプライスバリエントが特徴付けられている。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性:NAD(P)H + キノン = NAD(P)(+) + ヒドロキノン,補因子:FAD,酵素調節:ジクマロールによって阻害される,機能:本酵素は、解毒経路に関与するヒドロキノンの抱合反応、およびプロトロンビン合成におけるビタミン K 依存性グルタミン酸残基の  $\gamma$  カルボキシル化などの生合成プロセスにおいて、キノ還元酵素として機能すると考えられる,誘導:ダイオキシシンによる,質量分析:PubMed:11735396,その他:キノ還元酵素は、NADH と NADPH の両方から同等の効率で電子を受け取る。 ,多型:Ser-187 多型は、がんの感受性と関連している可能性がある。 ,類似性: NAD(P)H 脱水素酵素 (キノン) ファミリー、サブユニット: ホモ二量体、

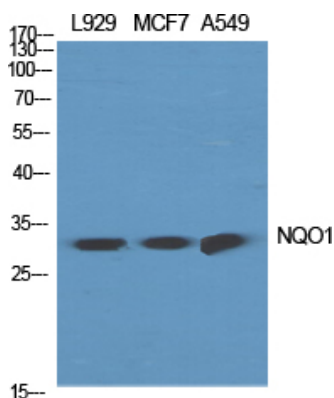
## 研究分野

シグナル伝達

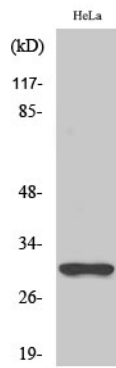
## 画像データ



NQO1 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解液のウェスタン ブロット分析。



1: 2000 に希釈した NQO1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



NQO1 ポリクローナル抗体 (1: 2000 希釈) を用いた Jurkat 細胞のウェスタンブロット解析